

## 館長だより第1号(2017/4)

(自己紹介)

本年(2017)4月から紀伊風土記の丘館長に就任いたしました中村浩(浩道)です。当館のホームページにアクセスしていただきありがとうございます。高瀬要一元館長がはじめられた「館長だより」を水田義一前館長から引き継ぐことになりました。どうかよろしくお願いたします。

第1回ですので、前例に従って自己紹介をさせていただきます。私は大阪府南河内郡東條村(現在の富田林市)に生を受け、大学時代の一時期を除いてほぼこの地を離れることなく、現在に至っております。幼少のころから、土器や瓦を拾い歩くという、分類上昆虫採集組の考古学少年ということになります。それが昂じて考古学の道に入り、人生の大半をそれに捧げる結果となりました。

大学卒業後は大阪府教育委員会文化財保護課で堺市南部の泉北ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財調査を担当しました。ここには陶邑と呼ばれた古墳時代から平安時代にかけての須恵器窯跡が多数あり、20歳代はこの調査研究に集中しました。やがて縁あって大谷女子大学の専任講師となり、以後34年間大学教員生活を過ごしました。この間、研究の中心は須恵器で、この研究成果をまとめ立命館大学から博士号をいただきました。さらに博物館学芸員養成課程の担当であったこともあり、博物館学にもめり込んでいきました。特に世界各地の博物館を巡って来ました。「二兎を追うもの一兎も得ず」ということわざがありますが、そのことわざ通りとなっているのかも知れません。

このほか東南アジアの土器づくりの調査や、カンボジアでのクメール陶器窯跡の発掘調査など振り返ってみれば、あきれんばかりです。今後は館長だよりの中でこれらの経験を少しでも紹介できればと考えていますが、果たして……。

ともあれ、まさに野次馬精神の塊ともいえる私ですが、少しでも風土記の丘の発展に寄与できればという思いで一杯です。読者の皆様の忌憚のない意見をお寄せいただき、より良き方向に、向かいたいと思います。



翼を広げた鳥形埴輪とともに